

人と地球の未来を考える
社会環境報告書



2007



建設機械の国産第一号を世に送り出したコベルコ建機。

以来、事業環境の変化に迅速に対応しながら、常に新たな課題に果敢に挑戦し続けてきました。

脈々と流れるチャレンジスピリッツとフロンティアスピリッツ。

変化の中で、コベルコ建機は油圧シヨベルと環境リサイクル機械に特化した独自のオペレーティングを開始しました。

そして今、世界有数の建機・農機メーカーであるCNHグローバル社との全世界包括提携により、世界第3位の建設機械グループへと成長。

より高度な技術と品質に支えられた商品・サービスを、日本はもとより世界中の現場に提案できる体制を確立しました。

コベルコ建機の変わらぬ姿勢は、自分たちができること、それに精一杯、取り組むこと。

この姿勢を堅持し、建設機械メーカーとして、省エネ、極低騒音などの環境性能を満たした建設機械を世に送り出す。

ひとつの企業として、ステークホルダーの皆様にも長く信頼を寄せていただけるよう努力する。

身の丈に合った活動を点から線へ、そして面へと粘り強く展開していく。

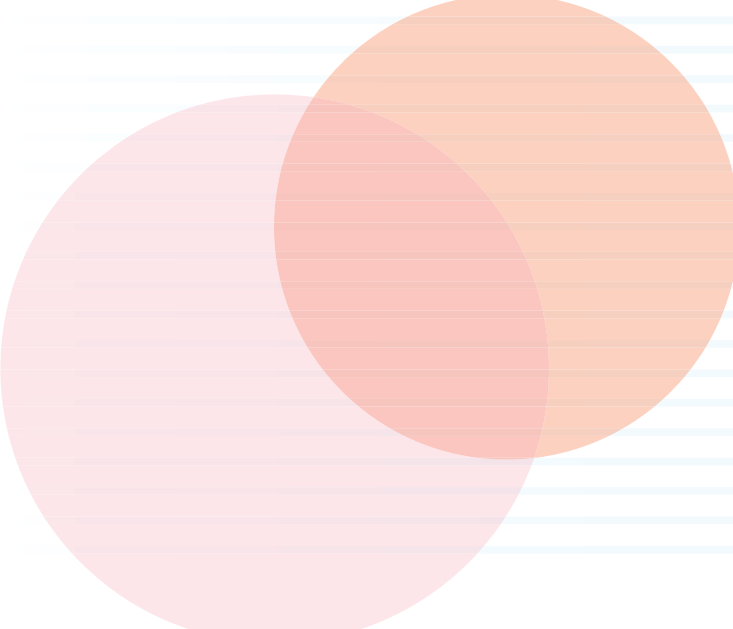
きっとその先に、コベルコ建機の描く未来の姿が現れてきます。

コベルコ建機が活動する「今」は、豊かな「未来」を育むための「今」。

コベルコ建機が思い描く「未来」は、「今」を大切にすることで生まれる「未来」。

「地球」と「社会」と「人」のため、強さとやさしさを備え、着実にCSR活動に取り組む、

しなやかな企業であり続けることを、コベルコ建機はめざします。



CSR メッセージ	03	04	地球環境保全に対する取り組み																						
05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
CSR 活動方針	09	10	コベルコ建機の CSR																						
コベルコ建機の CSR 活動について	11	12	社会と地球環境のために私たちができること																						
コンプライアンス	13	14	コベルコ建機のコンプライアンス活動																						
環境保全活動報告	15	17	地球の未来を考えて今、私たちにできること																						
	15	16	アセラ・ジオスベック																						
	16	17	ハイブリッドシヨベル/オートアイドリングストップ																						
	17	18	環境保全とコベルコ建機																						
環境マネジメントの取り組み	18	21	環境マネジメントの取り組み																						
私たちのチーム・マイナス6%	22	22	私たちのチーム・マイナス6%																						
社会・地域活動報告	23	26	人と社会と未来のために今、私たちにできること																						
	23	24	コベルコ建機 CSR 基金																						
	24	25	災害復興支援																						
	25	26	その他の活動																						
活動を通して、私たちコベルコ建機の社員が感じたこと	27	28	活動を通して、私たちコベルコ建機の社員が感じたこと																						
社会に役立てる「KOBELCO」ブランドをめざします	29	30	社会に役立てる「KOBELCO」ブランドをめざします																						

「社会環境報告書 2007」の発行にあたって

コベルコ建機株式会社は、ユザイ現場主義の経営理念とシンプル・スピード・オープンな行動指針のもと、企業の持続的成長の実現に向けたさまざまな活動を行っています。こうして取り組んでまいりました活動は、同時に、CSR (Corporate Social Responsibility) 企業の社会的責任 の実践でもありました。そして、この度、コベルコ建機株式会社の取り組んでまいりました活動を、社会環境報告書として発行する

報告書の対象に関して

こととなりました。本報告書では、「人と地球の未来を考えるコベルコ」を活動コンセプトに掲げ、「地球環境」の保全、「地域社会」との共存、社会貢献を通じた社員の「人間的成長」をテーマに展開しているこれまで、そしてこれからの CSR 活動について報告し、コベルコ建機株式会社のさまざまな活動に関わる、あらゆるステークホルダーの皆様にご理解を深めていただきたいと考えています。

【対象組織】
コベルコ建機株式会社本社及び、国内外の事業所、営業所、工場等、その他すべての関連施設を対象としています。

【対象期間】
2006年4月1日～2007年3月31日。ただし、内容によっては2006年4月1日以前のもの、2007年3月31日以降のものも含まれます。

【報告書発行】
2007年11月



【会社概要】

会社名	コベルコ建機株式会社	国内の主な関連会社	コベルコ建機東日本(株)、コベルコ建機関東(株)、コベルコ建機中部(株)、コベルコ建機西日本(株)、コベルコ建機九州(株)、コベルコ建機エンジニアリング(株)、コベルコ建機インターナショナルトレーディング(株)、コベルコ教習所(株)
英文社名	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO.,LTD.	海外法人	KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AMERICA LLC. (米国) NEW HOLLAND KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY S.p.A. (イタリア) 成都神鋼工程機械(集团)有限公司(中国) 成都神鋼建設機械有限公司(中国) 成都神鋼小型掘削機有限公司(中国) 杭州神鋼建設機械有限公司(中国) 神鋼建機(上海)工程機械有限公司(中国) THAI KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY LTD. (タイ) KOBELCO INTERNATIONAL (S) CO.,PTE.LTD. (シンガポール) KOBELCO-CNH AUSTRALIA PTY. LTD. (豪州) KOBELCO CONSTRUCTION EQUIPMENT INDIA PVT. LTD. (インド)
創立	1999年(平成11年)10月1日		
事業所所在地	東京本社：東京都品川区東五反田2丁目17番1号 TEL：03-5789-2111 広島本社：広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 TEL：082-874-1111 大垣事業所：岐阜県大垣市本今町1682番地の7 TEL：0584-89-3104		
資本金	160億円		
代表取締役社長	島田 博夫 (しまだ ひろお)		
事業内容	建設機械、運搬機械の製造、販売並びにサービス		
従業員数	710名(グループトータル4390名) [2007年4月1日時点]		
売上高	1394億円(連結2347億円) [2006年度]		



コベルコ建機は、これまで環境問題に取り組んだなかで培ったノウハウを活かし、コベルコ建機ならではの地球環境保全を行っています。



地球環境保全に対する取り組み

コベルコ建機では、燃費を20%改善した新型ショベルやハイブリッド建設機械の開発など最先端の環境技術の商品化をはじめ、職場内での省エネ活動の推進、排気ガスの排出量の少ないハイブリッドカーへの社用車や営業車の切り替えなど、地球温暖化の抑制に努めています。さらに、全国的な取り組みである温室効果ガス抑制プロジェクト、「チーム・マイナス6%」にも参加しています。

地球温暖化を防ぎ、水と緑にあふれた美しい地球本来の姿を取り戻すには、地球環境そのものを回復させていくことが重要です。コベルコ建機では、温室効果ガス排出の抑制による地球温暖化防止対策と併行して、地球資源をリサイクルするための取り組みを行っています。特にコベルコ建機が注力しているのが環境建設機械の開発です。作業現場で出る金属スクラップなどの処理問題。この問題を、たとえば解体作業で出た建設副産物を再生資源化する、つまり解体作業のプロセスをそのままリサイクルの一環とするなど、新たな視点・発想から捉え直して環境対応型建設機械の開発を推進しています。その成果は環境展への出展などを通して広く一般の方々にも紹介しています。地球環境保全は、長期的なスパンで考えなければならない大きな課題ですが、建設機械メーカーならではの環境技術やノウハウを駆使し、着実に地球環境保全に対する取り組みを続けていきます。

【写真】

1. 国内はもとより世界のさまざまな地域、環境、場所でコベルコ建機の建設機械は、地球環境の保全に活用されています。
2. 社用車や営業車へのハイブリッドカー導入やハイブリッドショベルの開発など、多方面からCO₂削減に努めています。
3. 限りある地球資源のため、環境対応型建設機械の開発を通して資源の再利用に貢献しています。
4. 周囲の環境と人への細心の配慮が求められる都心のビル解体作業現場などでもコベルコ建機の建設機械が活用されています。



コベルコ建機は「人と地球の未来を考える」をコンセプトに、
地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めています。



地域社会への貢献と共存への取り組み

コベルコ建機では、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存実現に向けた第一歩として、本社や工場、営業拠点の入り口への花植えや事業所周辺の清掃活動に力を入れ、地域環境保全のための美化活動を率先して行っています。さらにコベルコ建機自身が地域社会の交流の場となることをめざし、工場見学や写生大会の開催など積極的に地域の方々を受け入れを行っています。

また、地震などの大災害が発生した場合、被災地域への義援金の提供や、被災後の復興支援に必要となる建設機械の寄贈だけでなく、オペレーターを派遣して実際に復興活動に携わるなど、常に社会的責任を果たす、社会の一員としての企業意識を強く持つことでCSR活動に取り組んでいます。それに加え、地域社会のみならず社会全体への貢献活動の取り組みを推進するため、「コベルコ建機CSR基金」を設立。国内、中国、東南アジアなど事業活動展開地域を中心に、地球環境保護のための活動や社会に役立つ次世代の人材育成を対象とした、さまざまな支援活動を社内から公募して実施しています。その成果として世界遺産の修復に関わる人材育成活動、留学生や世界各地での教育支援など、幅広い取り組みを実施してきました。地域社会の、ひいては次世代に向けた地域貢献活動のサポートのために、コベルコ建機は活発な働きかけを続けています。

【写真】

1. スイスの標高3136mにある展望台の補修にもコベルコ建機の建設機械が活用されています。
2. 明石教習センターで開催された場内写生大会。建設機械を見つめる子供たちの笑顔が印象的でした。
3. コベルコ建機東京本社前で花摘み活動。近隣住民の方々とともに実施しています。
4. 中国で行われた神鋼奨学金の授与式。「コベルコ建機CSR基金」のひとつです。



コベルコ建機の社員は、より良い未来の実現に向け、
共に泣き、笑い、励まし合いながら進んでいくパートナーであり、大切な仲間です。



2



3



4



【写真】

1. 社員同士の温かなつながりが、コベルコ建機らしい温かみのある社風の基盤となっています。
2. 創立記念式典で行われたCSR賞の授与式。中国の社員の方が表彰されました。
3. 質の高い品質保証も、社員一人ひとりの高い責任意識に支えられています。
4. 社内へのAED（自動体外式除細動器）設置や社員への講習会実施なども重要なCSR活動として普及活動に取り組んでいます。

社員に愛される企業を実現させるため、コベルコ建機が大切にしているのは、社員一人ひとりがコベルコ建機の一員として誇りや喜びを感じながら、さまざまな企業活動に携われるように会社がいかにサポートしていくことです。そういった一環として社内環境の充実も重要であり、現在、コベルコ建機の全拠点へのAED（自動体外式除細動器）の設置を推進中です。併せて全社員の技能習得を目標にAED操作を含めた救命教育を行うなど、企業が果たすべき責任として多方面から社員へのCSR活動を行っています。

同時に、社員にはNPOやNGOへの参加と支援、発展途上国への寄付活動などを自らが企画し実行するCSR活動の担い手としての意識を高めていただき、かけがえないこの地球に住む一人の人間としての成長を期待しています。実際、社員からは期待を超える活発な提案が次々とされています。コベルコ建機としても、そのような社員の自発的な取り組みに対し、全面的なバックアップ制度を充実させ、社員によるCSR活動の支援に努めています。そのひとつとして福祉休暇をボランティア活動に活用する制度もあります。このように社員に愛される企業の実現を通し、コベルコ建機と社員が一丸となり質の高い社会貢献活動を行う体制づくりを推進しています。

社員に愛される企業をめざして

取締役執行役員 CFO 小坂敏夫

地道なCSR活動を通して、
人として、組織として
磨かれ、成長していきます



コベルコ建機のCSR

世界中のお客様との強いパートナーシップのもと、私たちは持続的成長を実現することを通して人と環境にやさしい循環型社会の創出に取り組んでいきます。そして、コベルコ建機に脈々と流れるヒューマンな心情を受け継ぎ、CSR活動を通して、社員一人ひとりが磨かれ、成長するきっかけにしていきます。

持続的成長を実現し、
人と環境にやさしい循環型
社会を創出していきます

昨年、私たちは「2006-2008コベルコ建機中期経営ビジョン」を策定し、現在、鋭意実行に移しています。ここで、「私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な“知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。このお客様価値の最大化を通じて、私たちは持続的成長を実現し、グローバルトップブランドをめざします」と謳い、短期的な利益に固執するのではなく、ステークホルダーの皆様にも信頼を寄せていただけるよう努力する姿勢を鮮明にしました。この計画を実現するため、良い製品を社会に提供することによって業績を伸ばし続けるとともに、「お客様の満足度アップ」「社員のやる気アップ」「社会への貢献活動」「地球環境への配慮」などの分野に積極的に働きかける意思を固めました。特に「社員」「地域社会」「地球環境」に対しての働きかけを継続して行うため、従来からの国内外での社会貢献活動を検証し、新たにコベルコ建機のCSR活動をスタートさせました。

一人ひとり、一つひとつ、
地道に活動し、ヒューマンな
土壌に未来の花を咲かせたい

CSR活動は、
・人道主義的でコベルコ建機存在感を増すものであること
・身の丈に応じた活動であること
・事業を展開している地域での活動であること

この3条件を踏まえ、「人と地球の未来を考えるコベルコ」を活動コンセプトにしています。

既に長い期間CSR活動を続けてきている先輩企業もたくさんあります。私たちコベルコ建機はまだまだ若い会社です。個別の活動では見るべき成果はありません。しかし、焦らず、活動を点から線へ、そして面へと粘り強く展開していく覚悟です。幸い、コベルコグループにはヒューマンな土壌があります。まだ緒に就いたばかりですが、まずは自分たちができることから手がけ、10年先、50年先を見据えて、一人ひとりと、一つひとつ、地道に活動していく所存です。

CSR活動を通して、
社員一人ひとりが磨かれ、
成長するきっかけにしたい

私たちのCSR活動の特徴は、あまり大上段に構えるのではなく、「まずは自分たちにできることからやってみよう」「現場に行ってみよう」「現場で確かめてみよう」「自汗を流してやろう」「気持ちと気持ちが通い合う活動にしよう」という泥臭いものです。そして私たちは、このCSR活動を通して、社員一人ひとりがそれぞれ抱いてきた意識の壁を乗り越え、自分が磨かれ、成長するきっかけになることを望んでいます。CSR活動のビジョンを実現するためには、自然体で取り組み、社員が「会社は自分にとってどういう存在なのか」を考えるきっかけとなることを願っています。会社も社員も自らの誠意を地域の方々に分かっていたくには、継続して、泥臭いことを日々やっていたくはなりません。長い道のりの一歩を、いま私たちは踏み出しました。

CSR 活動方針

活動内容の条件は、

- ・ 人道主義的でコベルコ建機の存在感を増すものであること
- ・ 身の丈に応じた活動であること
- ・ 事業を展開している地域での活動であること

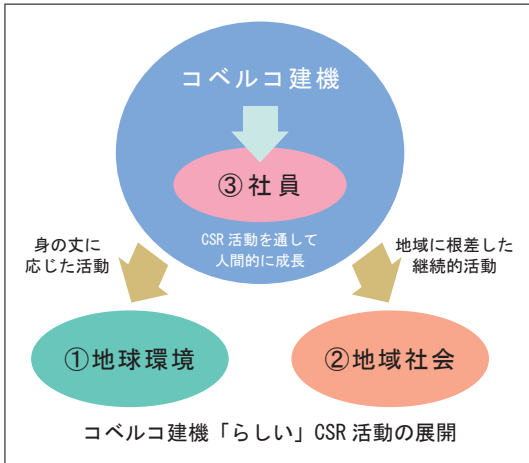
の3条件です。

これらを踏まえ、さまざまな視点から地球の未来を考え、また、社会貢献、企業と社会の交流、社員と社会の交流を活性化させ人の未来を考える「人と地球の未来を考えるコベルコ」を活動コンセプトとして掲げ、具体的活動を行っています。

CSR 活動方針

- ①コベルコ建機は、コベルコ建機ならではの地球環境保全を行います。
- ②コベルコ建機は、地域社会への貢献と地域住民の方々との共存に努めます。
- ③コベルコ建機は、社員と共によりよい未来の実現に向けて進んでいきます。

コベルコ建機の CSR 活動概念図



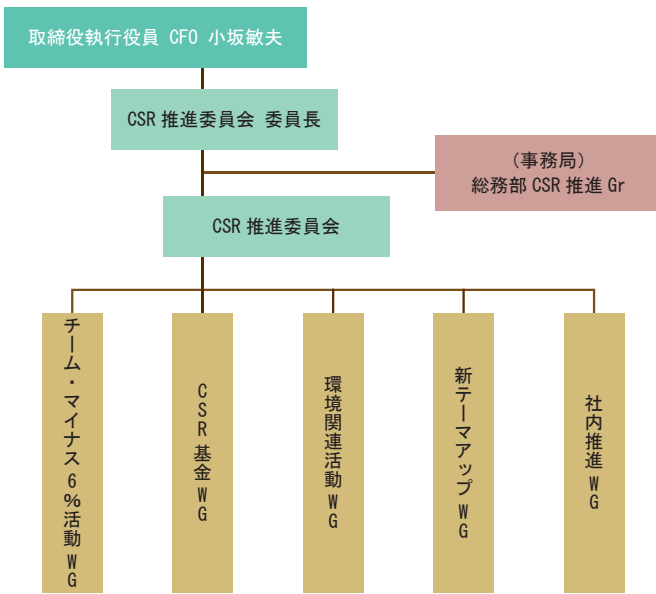
身の丈に応じた CSR 活動を地域に根差して継続的に行う。それにより社員一人ひとりが成長するとともに、コベルコ建機「らしい」CSR 活動を実現させていきます。

CSR 組織体制

コベルコ建機では、左記の組織体制を構築し、CSR 活動を推進しています。CSR 推進委員会は、委員長を筆頭に全社各部門の中堅、若手社員から選出されたメンバーで構成され、CSR 活動の基本方針・活動コンセプトの立案、年度スケジュール、中期計画の作成など CSR 活動の中核を担っています。

また CSR 推進委員会メンバーは、世界中の各部門のコベルコ建機社員から寄せられた具体的な CSR 活動案が、活動方針と合致しているか、「コベルコ建機らしさ」の感じられる活動であるか等を中心に議論を行います。ここで議決された活動案は、必要に応じて経営会議などの承認を経たのち、正式なコベルコ建機 CSR 活動に認定されます。

その後 CSR 委員会メンバーにより地域別・拠点別活動の立案、実践を通して、地域への CSR 活動の強化に努めています。



国内外での CSR 活動

CSR 推進委員会



社会と地球環境のために私たちができること

社会貢献は継続してやることに大きな意味がある。そのためには、身近なところから、身の丈に合った活動をしていく。そしてビジネスをさせてもらっている「報恩」の気持ちを忘れず、謙虚に取り組むことが大切。



身の丈に合った活動を継続していくことが大切

錦野／この度、コベルコ建機として初めて社会環境報告書を出すことになりました。コベルコ建機らしいCSR活動とはどのようなのか、社長はいかがお考えですか。

島田／CSR活動というと、ガバナンスやコンプライアンスも含まれますが、ここでは社会貢献に絞って話をしてみたいと思います。

社会貢献で一番大事なことは、持続する意思、つまり社会貢献を継続してやるのが大切だと思います。これまでさまざまな企業がメセナや社会貢献を行ってききましたが、継続して行っていくには、最初から大がかりな取り組みをすると往々にして失敗するという事です。身の丈に合った活動ということが継続していくためには大切だと思います。

私がコベルコ建機に就任した時、社員の意識の高さ、つまり品格のようなものを感じました。社会貢献をすることによって、普段の自分たちの行動を自覚し、この品格を磨いていきたいと思っています。

袁／私はこの間、CSR活動の一環として、中国四川省の成都で行っている教育支援の活動の視察

に行ってきました。

島田／中国の事業所の活動が円滑にいくようになれば、私はそういった活動は現地の人たちに任せていくことが大切だと思います。

CSR活動の大切な点は地域や個人の活動をサポートしていくことですから、私たちはタイや中国にも現地法人を持っているわけですが、その現地の人たちに任せていくことがこれからは大切になってくると思います。

袁／私の国籍は中国ですが、これまで長く日本の企業に勤めてきました。私の勤務するコベルコ建機が進出先の成都でさまざまな社会貢献活動をしていることをとても嬉しく思います。私の働いている会社が母国の繁栄に貢献していることは、私にとって大きな誇りになっています。先ほど社長がCSR活動を通して社員の意識や会社の品格を高めるとおっしゃったことに関して、こういう会社に勤めて本当に良かったと思っています。



錦野／東南アジアからもCSRの要請が来ていて、一度視察に行ってみようかと思っています。海外でのCSR活動の難しさとして、先ほどの成都の例でいうと、その先の地域にまで活動の範囲を伸ばそうとすると、もう道路自体がないという状況に直面するわけです。まず道路を造って、さてCSR活動をするとなると、気の遠くなるような状況が横たわっています。



島田／私もこの間、モンゴルに行く機会がありました。その際、日本の中学生と現地の中学生を交流させてはという話が出ました。しかし、両国の間の生活環境があまりに違い過ぎて、果たして交流することが互いのメリットになるのかという疑問が生じました。成都の例が出ましたが、一企業としてどこまでやるのかということが大きな課題になってきます。私たちの活動は国がやるような活動とは違うわけです。継続してやっていくことが大事です。そうすると、できる

ところから地道にやることも大切になってきます。



環境性能に優れた建設機械を
世に送り出していく

宮尾／現在、私たちには地球温暖化という大きな問題が突きつけられていると思います。これに関しては、社長として、また（社）日本建設機械工業会の会長として、どのようにお考えですか。

島田／環境問題を考えるうえで大きな問題は、国家間の格差をどうするかということだと思います。格差を解消しないまま規制だけで解決しようとしても難しいのではないのでしょうか。ヨーロッパの国々のように、「環境に良いことは何でもやる」という発想はとても立ちゆかなくなってしまう。できることから、まずエネルギー問題を解決しないと、膨大な人口を抱える中国やインドが直面している環境問題はとても解決できないと思います。

建設機械の分野でも、規制が世界的なレベルで一本調子に厳しくなっていくと、立ちゆかなくなることがいろいろ出てきます。日本の製品は燃費など世界の先端を行き、環境基準もクリアしています。そのなかでもコベルコ建機の製品は世界トップレベルの燃費性能を誇っていますが、さらに各社とも燃費向上の技術開発でしごきを削っています。私たちも慢心することなく、より高い環境基準にチャレンジしていくことが求められます。



奥山／コベルコ建機はこれだけ環境性能の良い製品を開発しているわけですから、もっともっとアピールしていいのではないのでしょうか。

島田／ある建設機械大手のエンジニア出身の社長に会合でお会いした時、コベルコ建機の製品にご自分で乗ってみて、「なるほど良い機械だ」とほめてくださったことがありました。実際に使う立場の方が惚れ込むという製品を私たちは提供しているわけですから、もっと自信を持ってよいと思います。

奥山／優れた製品を世に出していても、

日本ではあまり他社の製品と比べるような比較広告の手法は馴染まないで、ピーアールしにくい面はあると思いますが、今のようなお話を伺うと、自信と誇りを持って仕事に取り組みます。

ビジネスをさせてもらっている
「報恩」の気持ちを忘れずに

錦野／CSR活動は第三者の評価というものが重要になってきますが、その点に関しては何かお考えがございませうか。

島田／コベルコ建機のCSR活動の基本的な姿勢を訴えて、バックボーンにある「変わらないもの」を表現していくことが大切だと思います。先ほど、会社や社員の品格を磨いていきたいと言いましたが、あまり宣伝めいたものにしたくないというのが正直なところです。私たちが行うCSR活動は、国が行うこととは違うわけですから、日本全国でやるわけでも、世界各地で展開するわけでもありません。自分たちが事業をやらせていただいている地域への地道な貢献が大切です。

宮尾／アジアのなかで、各国と日本との関わりはとも多く、日本の良さを広めることも含めて、私はCSR活動を通じて視野が広がった感じがしています。最後に、この社会環境報告書を読む

読者の方にメッセージをいただけませんでしょうか。

島田／アジアの歴史のなかで日本と関わり合いのある独立や戦争も多かった。しかし、私たちはビジネスを通じてアジアの皆さんと共存共栄を図っていきたい。たとえば、中国の知的財産の問題に関して欧米の記者からその姿勢を迫及する質問がありまして、しかし、私はそれを聞いていて、あなた方もここにきて、ビジネスをさせてもらっているのではないか。確かに、まだ欧米の知的財産権を守る意識には及ばないかも知れないが、私たちも外から来て、ビジネスをしに行った人間であることを忘れてはいけない。ビジネスを通じて、損得だけではなく、その国



に対して「報恩」という気持ちを忘れてはいけないと思います。その気持ちを私たちコベルコ建機の社員一人ひとりが理解していくことが大切だと思います。CSRもコンプライアンスもガバナンスも、社員を守ることが第一です。会社を守ることを優先するわけではありません。これが経営の根幹だと私は確信しています。



(後列左) 奥山 真史
法務室
CSR推進委員会メンバー

(後列右) 錦野 宰一
IT・システム部 マネージャー
CSR推進委員会委員長

(前列左) 島田 博夫
代表取締役社長

(前列中央) 袁 晔今
中国事業本部 中国事業推進部 チーフ
CSR推進委員会メンバー

(前列右) 宮尾 卓司
企画管理部 商品企画室 チーフ
CSR推進委員会メンバー



コベルコ建機のコンプライアンス活動

コベルコ建機のコンプライアンス活動は、「社員を守り、会社を守る」活動です。コンプライアンス5原則を定め、常識を守り、法令を遵守し日々企業市民として社会的な責任をまっとうできる活動を行っています。コンプライアンス活動が何か特別な業務分野であるということではなく、当たり前のことを当たり前に守り実行し、日々一緒に業務を行う人々との十分な意思疎通を図りながら、仕事をする場の周辺住民の方々との共存が可能な会社をめざしています。私たちのこうした目標は、「風通しの良い自由闊達にして節度ある社風」の醸成によって達成できるものと考え、その実現に向けた努力を重ねています。



個人情報保護

個人情報保護法の施行後、あらゆる企業は個人情報保護のために管理対策の徹底が求められています。コベルコ建機も「個人情報保護ポリシー」及び「個人情報保護法管理規程」を制定し、グループ全体の管理体制を整備しています。また、個人情報の取り扱いに関しては「個人情報取扱マニュアル」を作成し、社員に対し本法の周知を図り、個人情報保護の意識を向上させるため、社内研修を継続的にを行い、個人情報が適切に管理されるよう努めています。



個人情報取扱マニュアル

リスクマネジメント

コベルコ建機では、経営上生じるリスクに対処するため、2006年に「リスク管理規程」を制定、それに基づいてリスクマネジメントを行っています。リスク管理規程は、各部門での自主管理・自主点検を基本として、「計画↓実施↓点検↓改善」の一連の業務サイクルを、継続して行うことを定めています。具体的には、「業務の有効性と効率性の確保」、「財務報告の信頼性の確保」、「法令遵守」、及び「資産保全」の達成を目的とし、その阻害要因となるリスクを識別、分析し、リスクへの

の対応として内部統制の整備、改善を行います。2007年4月に新設した監査室は、リスク管理体制を独立の立場から評価し、必要な改善をサポートしています。それにより、体制のさらなる強化を図ります。

人材育成・研修

コベルコ建機は、仕事を通して自己実現・達成感を感じながら期待される役割を果たすことを人材育成の目標としています。そのためには、社員一人ひとりが、具体的目標を持ち、その達成のために日々成長していくことが必要です。社員自らも自己研鑽を積み重ね成長していくことを期待し、会社も支援していきます。社員のキャリア形成については、自己申告制度を通じて上司と部下の間で業務目標と将来のキャリアプランについて話し合う場を設けています。これをもとに、本人の希望と事業・部門におけるニーズを勘案しつつ、育成的見地からのジョブ・ローテーションも実施しています。教育制度については、新入社員から管理職まで各階層の社員に求められる能力や考え方を身に付けるために、階層別研修を実施しています。



インターンシップ

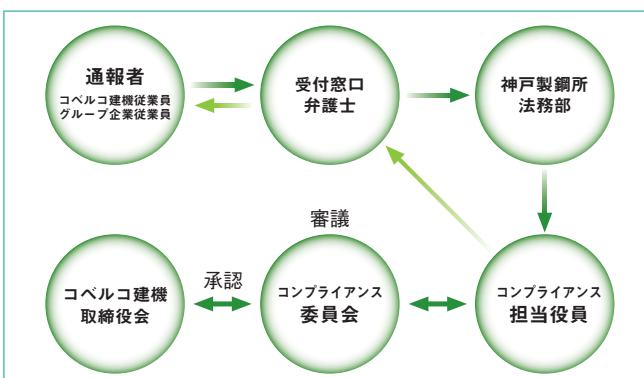
在学中の専門知識や将来のキャリアを念頭に置いた就業意識の向上、仕事を通じてコベルコ建機を含めた建設機械業界あるいは会社

における仕事の理解を深めてもらうことを目的にして、2005年より公募制で毎年夏季に実施しています。



内部通報システム

コベルコ建機は、法令・倫理及びコベルコ建機の行動基準等に違反することによるリスクの顕在化、拡大を未然に防止、また早期に問題を把握し、対策を講じ企業としての自浄作用を促進する仕組みとして「内部通報システム」を設けています。また、運用に際しては通報者が「通報を行ったことによる不利益を受けない」という原則を厳守しています。



■お客様へのサポート・サービス

サービスの使命

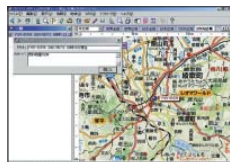
機械は土木、建設現場の主役。お客様は「機械を常に稼働させたい、故障はすぐに直して欲しい」と考えています。その気持ちにお応えして機械を万全の状態に保ち、トラブルが起こった場合には迅速に処置する。お客様の現場作業に欠かせない建設機械を、常に安全で、安心して使っていただくことが、コベルコ建機のサービスの使命です。

フィールドサービス

部品の交換、各種オイルや 그리스 などの補給、整備、修理など、建設機械の整備はその大半がフィールドサービスです。コベルコ建機のサービス拠点には、地域毎に納入した機械の履歴がパソコンで管理され、パーツ、機器などの耐用年数などを把握しています。トラブルが発生する前に、お客様に安全をお届けする役割を担っています。

ITによる稼働機管理システム

GPSと通信機を利用した稼働機管理システムで、機械からの発信をキャッチし、稼働状況・位置、機械の状



態の把握が可能となりました。また事前に情報が得られるため、整備サービスが向上。計画的なメンテナンスも可能となりました。さらに位置情報により現場へのアクセスが簡単になり、お客様への迅速なサービスにもつながりました。

商品開発への参画

新たな商品開発は、フィールドでの機械の診断やお客様とのコミュニケーションから得られた豊富な情報を基礎とした要素、開発本部の最先端の技術的要素、これに加え市場調査を実施してきた現場からの要素、これらを綿密な意見交換会議等により精査検討し、確実にお客様の要望などつかなだ情報が新商品へ反映されます。



フィールド情報展開

フィールドから得た情報に基づき、機械を正しく、効率良く、長く、上手に使うための技術的なアドバイスやコンサルティングを行っています。また、最新トレンドや商品情報を常に展開しております。

研修・教育

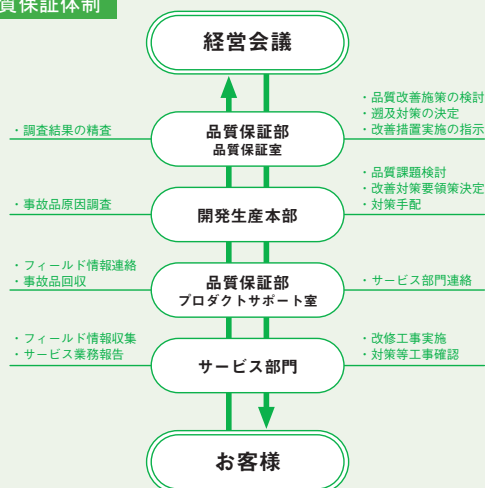
コベルコ建機の販売、サービスのネットワークは全国約400カ所。販売店やサービス工場の販売スタッフ、整備スタッフに新商品の知識や情報、機械構造や整備技術を常に伝授しています。また、配属された社員は1年間、技術知識、整備技術の研修を受講し、必要な技術や資格を取得しています。

■製品の品質・安全

品質理念

「ユーザー現場主義」の考え方を重視し、顧客の要求する品質を作り込むことにより、顧客の満足と信頼を得る製品を提供し、社会に貢献するとともに、社員並びに会社の繁栄に寄与する。

品質保証体制



品質基本方針 (抜粋)

- 全世界の顧客が満足する製品を提供するために、顧客の現在及び将来のニーズを理解し、品質マネジメントシステムの有効性を継続的に改善していく。
- 変化に強い事業体の構築、品質重視の企業風土の更なる醸成を目指し、リスクの顕在化と対応策を含めた活動の深化・進化を図る。
- グローバルエンジニアリングセンター、ショベルのマザー工場としての地位を確保し、世界一流の商品を常に世に先んじて開発・生産できる活動体を目指す。
- 全ての活動で、顧客ニーズ及び社会的法的要求事項に適合する製品の品質目標を定め、安全でかつ信頼される製品を提供する。
- 設計・開発の計画、各部門の品質目標達成計画は、5W1Hを明確にして作成し迅速かつ、管理のサイクルPDCA (Plan, Do, Check, Action) を確実に廻し、効率的な活動を展開する。



地球の未来を考えて 今、私たちにできること

コベルコ建機は、大幅な燃費の低減や排ガスの抑制などを可能にした、さまざまな建設機械の開発を通して、地球環境の保全に努めています。その成果は、アセラ・ジオスペック、ハイブリッドショベル、オートアイドルストップ機能など具体的な形となって結実しています。これら建設機械に共通する開発マインドは、「地球環境のためにできることをする」。この思いからコベルコ建機の製品開発は始まっています。これからも地球環境に配慮した建設機械の開発に挑戦していきます。

アセラ・ジオスペックは、2006年6月、コベルコ建機が7年ぶりに油圧ショベルのフルモデルチェンジを行い新シリーズ化し、国内建設機械業界で最初にオフロード法適合となった環境に配慮した油圧ショベルです。20tクラスでは従来機に比べ燃費を20%改善し、低燃費性能を実現。さらに、作業量の増大、耐久性の確保、操作性の向上と、コベルコ建機独自の付加価値を盛り込んでいます。

アセラ・ジオスペック

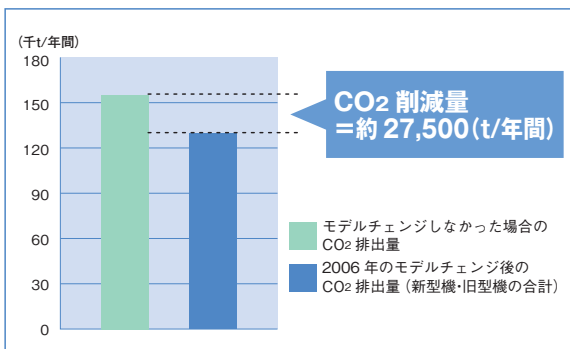


ACERA GEOSPEC

アセラ・ジオスペックによって、何が変わったのか

「燃費20%改善」と「CO₂の大幅削減」を実現

「お客様にコストメリットがある機械」をコンセプトに開発に取り組み、(対前機比で)燃費20%改善を実現しました。さらに、コベルコ建機の実験データでは、フルモデルチェンジ前の油圧ショベルを7.5年使用した場合と比較すると、アセラ・ジオスペックは年間でおよそ27,500tのCO₂の削減効果を試算。まさに「地球に配慮した」効果が期待できる建設機械です。



※ 2006年度20tショベル工場出荷ベースによる当社試算値

なぜ、アセラ・ジオスペックを開発するに至ったのか

年々厳しくなる建設機械の排ガス規制

排ガス規制は、スス(粒子状物質=PM)と窒素酸化物(NOx)、黒煙の排出量を制限。第3次規制では、エンジン出力に応じ、現行規制値の2~5割の低減の義務づけと同時に、オフロード機に法律が初適用され、未適合の機種は製造・販売できなくなりました。

オンリーワン建設機械の開発をめざして

排ガス規制強化のなか、コベルコ建機は、国内建設機械業界で最初に第3次規制の認可を取得。さらに、いずれ他社が認可を取得することを見据え、コベルコ建機の独自性を示す大きな開発テーマに基づくオンリーワン製品の開発に取り組みました。

■ 業界最高水準の環境に配慮したエンジン

エンジンは、排ガス対応に優れ、燃焼時の騒音も少ない業界最高水準のものを採用。エンジン単体の燃費を下げる部分は限られるため、削減ポイントを『エンジン自体の燃費』『エンジンの制御』『油圧機器の効率』『油圧機器の圧力損失の低減』の4部門に分け、トータルで20%の燃費削減を目標に設定。動力、油圧制御、構造、電気制御、装備の5つの要素開発グループが神戸製鋼所と共同開発しました。

■ 新油圧システムで燃費と作業能力を向上

油を流す際、抵抗が大きいとロスが大きくなり、流れる油の量が減少し、エネルギーの一部が熱エネルギーとして逃げてしまいます。あらゆる油圧シヨベルのエネルギー損失を防ぐため、各パーツの見直しを図り新油圧システムを開発しました。たとえば、L字型でつないでいたコネクターの径を太くしてカーブ状に変更し、圧力損失を低減。これによりトータルの燃費削減だけでなく作業能力も向上しました。

■ 開発方式を一変させたシミュレーション技術

開発実験には、研究室内にエンジンと油圧ポンプを置きコンピュータで全体をシミュレートする「ベンチ装置」を導入。エンジンやポンプなどの燃費・制御性能に加え、操作性の評価も可能となり、各種実験の信頼性が格段に向上しました。

■ メーカーと共同で建設機械用エンジンを開発

建設機械の使用環境に適した燃費の改善を図るため、ベンチ装置によるデータをもとに、エンジンメーカーに対し具体的な燃費改善の指示を出しながら、共同で新型エンジンを試作。建設機械用に特化したエンジンが完成しました。



■ 「低騒音・低振動」をさらにレベルアップ

20tクラスの建設機械は、国土交通省の「超低騒音」の認定済みでしたが、不快音の低減やオペレーターのストレス軽減を目標に、油圧音など耳障りな「音質」の改善に取り組み、さらに低騒音化を実現。また、ローラーの配置間隔の適正化を図り、オペレーターの疲労原因となる「走行振動」の40〜50%低減を実現しました。



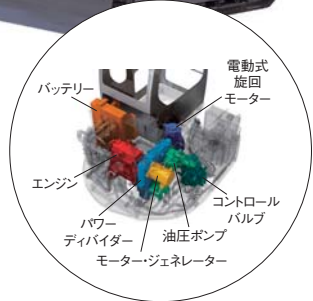
■ 技術開発本部との連携をますます強化

アセラシオスベックの開発に際して、神戸製鋼所・技術開発本部との連携を強化し開発に取り組みました。試作機を作る前に、共同でさまざまなシミュレーションを実施することで、確度の高い設計ができ、完成度の高い試作機の開発が実現。これにより、開発期間の短縮や目標数値の達成が可能となりました。今後も、神戸製鋼所・技術開発本部と連携を深めてシミュレーション技術を高めていきます。



シヨベルに適したハイブリッド技術を開発

燃費削減 60%以上



■ ハイブリッドシヨベル

2005年2月、地球温暖化効果ガス削減を義務づける京都議定書が発行され、建設業界でもCO₂削減に向けハイブリッド技術の適用が各社で検討されています。コベルコ建機では、1999年より独立行政法人NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)からの研究委託を受け、神戸製鋼所と共同でハイブリッドシヨベルの開発を行ってきました。シヨベルに適用できるハイブリッドシステムの開発に始まり、さらに世界初となる開発のため、機器スペックから評価方法にいたるすべての判断基準を実験・検証を繰り返しながら設定しました。その際、神戸製鋼所で保有しているシミュレーション技術を活用し、その妥当性検証の効率化を進めました。

そして2004年、6tクラスの油圧シヨベルをベースに実証機を製作し、現行機比で60%以上の燃費削減効果を実現しました。2006年4月、パリで行われた建設機械の国際見本市INTERMAT2006に世界初のハイブリッドシヨベルとして出展され、世界各国から高い評価を得ました。今後は実用化に向け、実機を用いたモニター評価による性能・機能品質の見極めのステップへ進めています。

■ オートアイドリングストップ



年間燃料節約量
ドラム缶 約30本
SK200の場合
(当社試算)



建設機械業界で初の実用化に成功し、現在特許申請中の「オートアイドリングストップ機能」。マシンの停止状態が続くと自動的にエンジンを停止。排出されるPM(粒子状物質)やNO_x(窒素酸化物)、CO₂(二酸化炭素)の総量を低減し、大気汚染や地球温暖化への影響を最小限に抑えます。コベルコ建機の試算によれば、従来同型機に比べ約20%も燃料消費量を削減し、排ガスの量を抑えます。



地球の未来を考えて 今、私たちにできること

■ 環境保全とコベルコ建機

地球環境の保全をめざす過程で、リサイクルの必要性、重要性が高まるとともに、建設機械メーカーの果たすべき責任と役割も、日々大きくなっています。コベルコ建機は、建設機械メーカーとして環境リサイクルを推進するため、環境対応型建設機械の開発に積極的に取り組んでいます。建設副産物及び金属スクラップのリサイクルを中心に、再生資源への転換を図るなど、独自に開発した環境対応型建設機械を活かして、さまざまな形で地球環境の保全に貢献しています。

環境展への出展

毎年、東京ビッグサイトで開催されるNEW環境展。さまざまな企業や団体が収集、運搬、搬送、作業環境改善、廃棄物処理、リサイクルなど各分野にわたる、地球環境に配慮した新技術や新工法などを紹介しています。地球環境の保全活動に積極的に取り組むコベルコ建機も、毎年新たな発想、技術を駆使した環境機械を開発して出展しています。環境問題への意識の高まりとともに年々増加する来場者の方々からも、好評をいただいています。



建設リサイクル

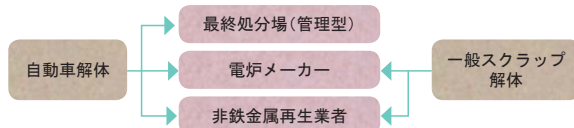
環境保全活動の一環として、建設リサイクルマシンを開発しています。このマシンのポイントは、建造物などの解体作業そのものをリサイクルの一環として捉えること。解体作業で出る建設副産物が、最終的に再生資源になる。つまり、解体プロセスそのものが再生資源の製造プロセスとなるような解体作業に貢献します。これにより、資源の節約と廃棄物の削減という二重の効果が生まれ、資源リサイクル効果を高めています。

超ロングアタッチメント装備による高さ65mの伸長は世界記録としてギネス認定。



金属リサイクル

各種リサイクル法の施行により金属スクラップのリサイクルも新たな時代に入っています。国内における金属原料の供給に加え、海外への輸出需要に応える役割を担うようになっています。コベルコ建機の金属リサイクルマシンは自動車や一般スクラップなど幅広い金属スクラップの処理工程、流通形態に対応しさまざまな作業で高いパフォーマンスを発揮。工程の効率化、作業の省力化・快適化を実現しています。



資源リサイクル

環境保全のための資源の再利用など、社会的なリサイクル活動は大きな進歩を遂げています。しかし廃棄物問題は抜本的な解決策を見出せないままです。コベルコ建機は、これまで建設リサイクルと金属リサイクルの2分野を中心に、多彩な環境機械を開発。現場の機械化、快適化、安全化を図ることで廃棄物問題にも貢献してきました。今後は産業廃棄物のリサイクル処理関連マシンの開発も予定しています。





環境マネジメントの取り組み

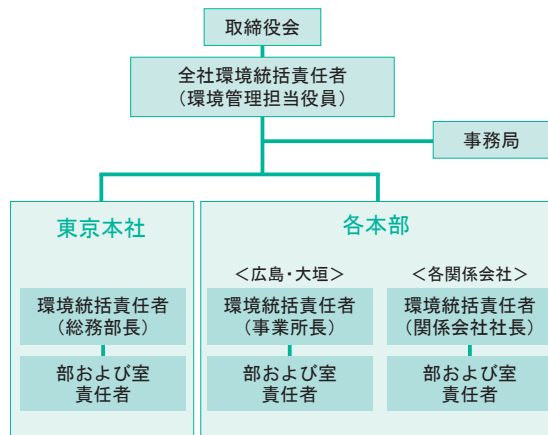
■環境への考え方

コベルコ建機開発生産本部は、建設機械（油圧ショベル・油圧クレーン）の開発・設計・製造を行っています。私たちは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつと認識し、我々を取り巻く環境問題について、当社の行動指針に沿った、シンプル、スピード、オープンなエコロジー活動を推進します。環境への考え方を左記の通り定め、当本部の業務に従事するすべての人は、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図り、汚染の予防に努めます。

- ① 環境への取り組みを、重要なマネジメントのひとつと位置づけ、環境の保全と改善活動を推進します。
- ② 活動の推進に当たっては、環境目的および目標を定め、定期的な報告及び見直しを実施します。
- ③ 適用範囲に定めた活動、製品の領域において、省資源、省エネルギー、リサイクルの推進、廃棄物の削減、有害化学物質の削減、騒音振動・臭気・VOCの低減、二酸化炭素の削減、そして経費の削減に取組みます。
- ④ 環境問題の改善に有益で、経済的に実行可能な新技術、新製品の開発に努めます。
- ⑤ 環境関連法規、条例、協約を遵守し、地域社会との対話を推進して相互理解と協調に努めます。
- ⑥ 当本部全員に、環境教育の実施と環境情報を提供して、環境に関する活動及び意識の向上に取り組めます。
- ⑦ この環境方針は、一般の人が入手できるものとします。

■環境管理体制

コベルコ建機では、東京本社をはじめ、各本部、部署、事業所などから環境統括責任者を選出。環境管理体制を強化し、全社的な環境マネジメントを実施しています。



■資材購入方針

コベルコ建機は、2004年度に全社の購買業務規程を全面改訂し、環境への対応やコンプライアンスの強化など、社会的な要請に応えられる内容としました。購買業務規程では、「購買業務を行うに当たっては、社会情勢及び社会的要請に留意し、環境保全、資源保護などに十分配慮しなければならない」と定めています。品質等で問題が少なければ、リサイクル品など環境負荷が小さい製品を購入するように努めています。

また、「コベルコグリーン購入ガイドライン」を定め、文具・事務用品、OA用紙、パソコンなどの購入に適用しています。たとえば、文具・事務用品については、再生

材料を多く使用しているもの、白色度が低いものなどを推奨しています。また、パソコンについては、使用時の電力消費量が少ないこと、一定時間使用しないと自動的に低電力モードやオフモードに移行する機能を有しており、低電力モードでの消費電力が小さいこと、再生プラスチック材が使われていることなどを目安としています。コピー機については、使用時の電力消費量が少ないこと、使用後に分解して部品の再利用や素材のリサイクルがしやすいように設計されていることなどを購入基準としています。

■社会環境報告書の発行

コベルコ建機ではこれまで、環境保全活動など、さまざまな社会貢献活動に取り組んできました。2006年度からは、「人と地球の未来を考えるコベルコ」という活動コンセプトを掲げ、地域社会への取り組み、地球環境の保全活動などを中心にCSR活動を展開。その取り組みを社会環境報告書にまとめ発行しました。今後とも幅広いCSR活動の成果をお伝えできるように努めていきます。



インターネットはこちら
<http://www.kobelco-kenki.co.jp/csr/index.html>



環境マネジメントの取り組み

■化学物質の管理と削減

PCB管理

PCB（ポリ塩化ビフェニル）が含まれる使用済みのトランス、コンデンサーなどについては、「PCB 廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、専用の保管場所などにおいて適正に管理するとともに、届出を行います。

神戸製鋼グループでは、PCB 処理事業を行っている日本環境安全事業（株）（JESCO）に早期登録を行いました。今後、策定した処理計画に基づき、適正処理を行ってまいります。

アスベスト対策

労働安全衛生法や廃棄物処理にあたっての環境省の指針などに基づき、適正な代替化を進めています。

建築物については飛散性石綿に対する緊急対策工事をすべて終了しています。現在、石綿飛散が懸念される吹き付け材・貼り付け材についても、計画的に対策を実施中です。非飛散性と定義される石綿含有建材や設備・機械などについては、順次、除去・代替化を進めています。

また台帳整備と管理及び現品表示などの適正処理する取り組みを全事業所で開始しています。

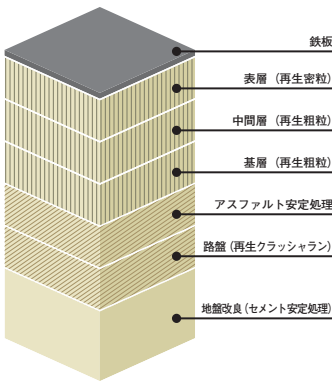
VOC削減

VOC 対策として、有機溶剤の少ない塗料への変更を進めています。

2007年8月からは、VOC が従来比33%減の下地塗料を採用致しました。

■騒音・振動の低減・防止

工場騒音・振動が周辺に及ぼす影響を調査し、そのデータに基づいて、設備の騒音・振動低減を進めています。また、送風機、圧縮機、破碎機などの既設騒音発生源を建屋で覆うことや、防音壁、防振パット設置などにより騒音・振動を遮へい・吸収するという多面的な対策を実施しています。



実機積み場の振動低減・防止に伴う土間改修

開発生産本部広島事業所祇園工場 (/kg)

物質名称	物質番号	2006年度	
		排出量	移動量
エチルベンゼン	40	31,000	360
キシレン	63	220,000	360
1,3,5-トリメチルベンゼン	224	1,500	360
トルエン	227	15,000	360
総計		267,500	1,440

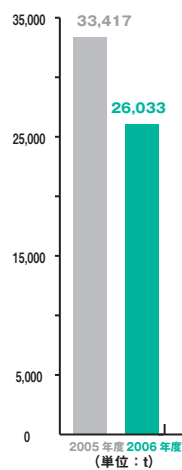
開発生産本部広島事業所沼田工場 (/kg)

物質名称	物質番号	2006年度	
		排出量	移動量
エチルベンゼン	40	4,100	81
キシレン	63	37,000	81
総計		41,100	162

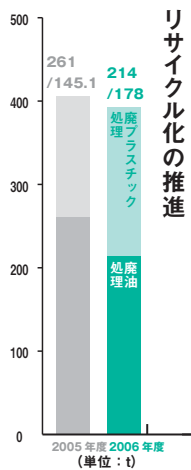
■廃棄物発生抑制とリサイクルの推進

廃棄物の発生を極力少なくするとともに、可能な限り再資源化するよう努めています。今後も引き続き、再資源化の技術開発を進めるなど、廃棄物の発生抑制を一層進捗させてまいります。

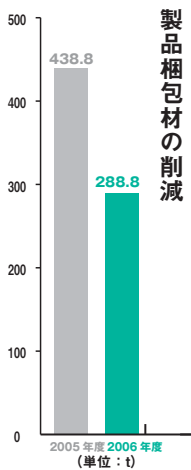
投入資源の削減（祇園工場水道使用量の削減）



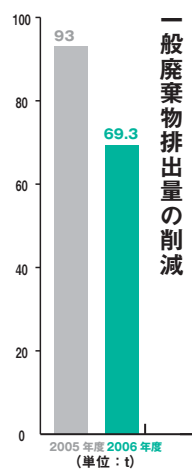
リサイクル化の推進



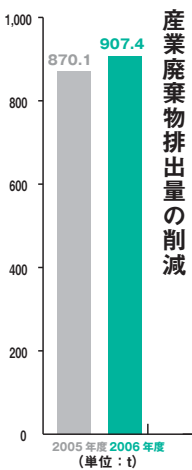
製品梱包材の削減



一般廃棄物排出量の削減



産業廃棄物排出量の削減



環境リスク管理・環境監査

コベルコ建機は、広島事業所及び大垣事業所を対象に環境リスク管理体制を構築し、環境監査の強化に努めています。大気、水質、振動、騒音、廃棄物、化学物質、エネルギー、危険物、施設・設備等の各チェック項目を設定。各事業所において対象項目が関係法令等に定められた基準等を満たしているか、定期的な環境監査を行っています。今後は、広島、大垣事業所以外のコベルコ建機の工場等でも実施予定です。

チェック項目	コベルコ建機広島事業所	コベルコ建機大垣事業所
大気	大気汚染防止法 悪臭防止法	大気汚染防止法／条例 悪臭防止法
水質	水質汚濁防止法 下水道法	水質汚濁防止法 水道法
振動	振動規制法	振動規制法
騒音	騒音規制法	騒音規制法
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
化学物質	PRTR法	PRTR法
エネルギー	エネルギーの合理化に関する法律 地球温暖化対策の推進に関する法律	エネルギーの使用の合理化に関する法律
危険物	消防法 高圧ガス保安法	消防法 高圧ガス保安法
施設・設備	大気汚染防止法 水質汚濁防止法 高圧ガス保安法 工場立地法	大気汚染防止法／条例 水質汚濁防止法 岐阜県公害防止／条例 大垣市公害防止協定 高圧ガス保安法／工場立地法

事業活動に伴う排出量

コベルコ建機広島事業所

所在地：広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号
主要製品：建設機械、運搬機械、自動車、自動車関連機械器具・部品

大気

項目	設備	規制値	実測値
NOx	該当なし	-	-
ばいじん	該当なし	-	-
ダイオキシン類	該当なし	-	-

水質

項目	規制値	実測値
COD	該当なし	-
SS	600	3.9 ²⁾
油分	<30 ¹⁾ 、<5 ²⁾	088 ²⁾
ダイオキシン類	該当なし	-

1) 動植物油 2) 鉱油 3) 平均値

化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、 使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	260,000	0	0	0	0	440	塗装
トルエン	15,000	0	0	0	0	360	塗装
エチルベンゼン	35,000	0	0	0	0	440	塗装

取扱物質総数 4

■大気データ

※規制値：大気汚染防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法

※単位：NOxはppm、ばいじんはmg/Nm³、ダイオキシン類はng-TEQ/Nm³

※規制値は、対象施設ごとに決められています。

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下（検出されない）もしくは規制値以下。
硫黄酸化物、カドミウム、塩素、塩化水素、フッ素、フッ化水素およびフッ化珪素、鉛、ベンゼン、トリクロロエチレン、ダイオキシン

■水質データ

※規制値：水質汚濁防止法、県条例、ダイオキシン類対策特別措置法もしくは市下水道条例、協定値

※単位：mg/ℓ、ダイオキシン類はpg-TEQ/ℓ

コベルコ建機大垣事業所

所在地：岐阜県大垣市本今町1682番地の7
主要製品：建設機械及び部品

大気

項目	設備	規制値	実測値
NOx	該当なし	-	-
ばいじん	該当なし	-	-
ダイオキシン類	該当なし	-	-

水質

項目	規制値	実測値
BOD	30	2.1
SS	40	<1
油分	5	<1
ダイオキシン類	該当なし	-

化学物質

物質	排出量				移動量		主な使用工程、 使用目的など
	大気	公共水域	土壌	所内埋立	下水道	事業所外	
キシレン	30,500	0	0	0	0	610	塗装
トルエン	8,540	0	0	0	0	171	塗装
エチルベンゼン	3,900	0	0	0	0	78	塗装

取扱物質総数 3

※ND：分析定量限界値以下（検出されない）

※表に記載されていない以下の項目はすべて定量限界値以下（検出されない）もしくは規制値以下。
pH、BOD、全窒素、全リン、フェノール類、総クロム、溶解性鉄、溶解性マンガン、フッ素、銅、亜鉛、カドミウム、総シアン、有機リン、鉛、六価クロム、砒素、総水銀、アルキル水銀、POB、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエチレン、1,1,2-トリクロロエタン、1,1,3-ジクロロプロパン、テラウム、シマジン、チオベンカルブ、ベンゼン、セレン

■化学物質

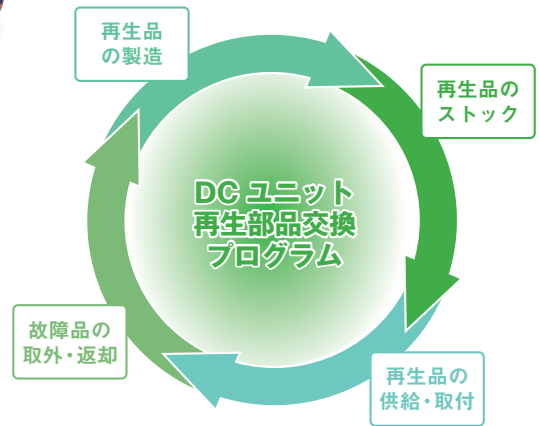
※単位：kg



環境マネジメントの取り組み

■ 廃棄物削減 (リユース・リサイクル)

コベルコ建機では、地球資源の保護を第一に考え、部品を再生して繰り返し使用できるDCユニットを開発しました。故障品を回収し、有用可能な部分のみを利用し高品質な再生品として製造。廃棄物削減効果のほか、低価格で供給でき、メンテナンスコスト削減が可能となりました。



■ 環境教育・資格

コベルコ建機では、広島事業所及び大垣事業所で環境マネジメントシステム国際規格「ISO14001」の認証を取得。これをきっかけに、さらに環境に関わるコンプライアンスに対する意識の向上と環境マネジメントの理解を目的に、新入社員から環境管理委員、経営幹部層までを対象に、環境教育をテーマごとに実施しています。また、環境系資格の取得を社員に奨励し、資格取得に向け全面的なバックアップを行っています。

教育区分	テーマ	対象者	教育訓練方法	
		区分	教育内容	方法
環境への自覚	ISO14001 概要	新入社員	JIS Q 14001 環境マニュアル	講義
内部環境監査 力量アップ	監査技法	内部環境監査員	環境マニュアル 関連規程他	講義
下請負契約者	環境影響への理解	特定の 下請負契約者	環境方針の説明	講義 又は手紙
緊急事態訓練 (模擬訓練)	緊急事態対応 の訓練	各職場の代表者	緊急事態対応手順書	模擬訓練
環境への自覚	環境マネジメント の重要性	事業所長 部門長 環境管理委員	環境報告書 環境経営計画 (神戸製鋼グループ)	講義



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

コベルコ建機はチーム・マイナス6%に参加しています。

私たちのチーム・マイナス6%

地球温暖化対策は、建設機械メーカーであるコベルコ建機にとっても重要課題です。2006年からは「京都議定書」で定められた日本のCO₂排出量の削減目標6%達成をめざし日本政府が主導する、国民的活動「チーム・マイナス6%」へ参画。CO₂削減の取り組みをさらに強化しています。



省エネシール



チーム・マイナス6%シール

省エネ意識の向上
CO₂削減のため、社内での省エネ活動に徹底して取り組んでいます。オフィスの蛍光灯やパソコン、プリンターは、作業終了時、退社時にこまめに電源を落とし、節電を心掛けています。また、社員全員のパソコンとフロア内のすべてのプリンターに省エネシールを貼り、省エネ意識の向上に努めています。さまざまな活動ですが、全社をあげ、社員一人ひとりが継続して取り組むことで大きな省エネ効果につながっています。また、シヨベルにチーム・マイナス6%シールを貼って、省エネ運動をしていただけるように働きかけています。



営業車のハイブリッドカー化
自動車から出る排気ガスは、地球温暖化を進行させる大きな原因となっています。コベルコ建機は、環境への負担を軽減するため、各拠点のすべての営業車を排気ガスの排出量が少ないハイブリッドカー「プリウス」へと順次切り替えています。更に営業車のキースイッチとリアガラスに「チーム・マイナス6%」シールを貼り、環境に対する意識向上を促し、社員が環境に配慮した運転を心掛けるように努めています。



COOLBIZ / WARMBIZ
「チーム・マイナス6%」の一環として環境省が推奨するCOOLBIZ、WARMBIZを実施しています。エネルギー消費量の多い夏季と冬季に室温をそれぞれ28度と20度に保ち、オフィス内の空調設備のエネルギー消費を抑え、CO₂排出量の大幅な削減につながります。室温調整に合わせ、社員はCOOLBIZファッショ、WARMBIZファッショに身を包むなど積極的に取り組んでいます。

ゴミの削減
毎日、何気なく捨てられるゴミの焼却処理時には、大量のCO₂が排出されます。そこで、デスク横にあるゴミ箱を撤去し、「ゴミ箱をフロアに集中して設置。社員一人ひとりが、ゴミを極力出さない習慣を身に付け、トータルゴミ排出量を抑制しています。同時に「もやすゴミ」、「もやさないゴミ」、「プラスチック」等のゴミの分別を社内徹底させるなど、きめ細かく環境への配慮を行っています。

人と社会と未来のために 今、私たちにできること

コベルコ建機 CSR 基金

「人と地球の未来を考えるコベルコ」を掲げるコベルコ建機のCSR活動。この思いを具体的な活動へつなげるため、2006年、「コベルコ建機CSR基金」を設立しました。この基金は、社員から地域社会への貢献及び地球環境の保全等の活動を公募し、コベルコ建機のCSR活動にとってふさわしい活動に対して、支援を行っていくというものです。「コベルコ建機CSR基金」を通じて、国内外でさまざまな社会貢献活動を支援・実施しています。

1 促進小学校施設修繕と小学生への学費支援

2006年9月、中国における生産拠点「成都」近隣の四川省眉山市仁寿县にある促進小学校を訪ねました。古びた校舎と笑い声の絶えない子供たちの姿が印象的でした。「子供たちに何かしてあげたい」との思いから窓ガラスの設置と経済的なハンディを持った生徒の学費と昼食代の支援を始め、子供たちとの交流がスタートしました。冬には古着と生徒全員分の手袋・マフラーを、旧正月には、年越し用品の食料や学習用機材を届けました。



2007年4月には、「子供たちに本物のシヨベルを見せたい」との思いから、「成都神鋼（コベルコ建機の中国第一シヨベル工場）」の見学会を開催。工場見学や巨大なシヨベルの前での記念撮影など、楽しい一日を過ごしてもらいました。子供たちの笑顔のため、今後もコベルコ建機らしい心の通った交流を続けていきます。



2 アンコールワット復興を支えるカンボジア人の育成

「カンボジアの遺跡はカンボジア人の手で守る」という上智大学、石澤学長と上智大学アンコール遺跡国際調査団の意志と活動に共感したコベルコ建機。「コベルコ建機CSR基金」支援の第1号としてアンコールワット修復に関わる人材育成を支援しました。



3 ウラジオストック私立学校への

ウラジオストック初の私立学校では、日本語教育も行われています。コベルコ建機の社員が訪問したとき、歓迎してくれた子供たちの歌声とは裏腹にピアノの音は、音飛びばかり。「ぜひピアノを送りたい」という社員の気持ちを現わされ、ピアノと電子オルガンを贈呈しました。



4 西南交通大学 神鋼奨学金設

創立110周年を迎える中国の西南交通大学で、有為の学生を対象に「神鋼奨学金」を設立し、2006年12月、西南交通大学にて調印式を行いました。2007年には日本語スピーチ大会が開催されるなど、学生への講演や日本文化を広める活動を実施しています。





8 河川の清掃、養護学校生徒へのジェットスキー体験等

コベルコ建機九州、熊本営業所の横には養護学校があります。営業所と養護学校を隔てる金網越しから建設機械の動きを一日中見ている生徒がいました。そこからコベルコ建機九州と養護学校の子供たちとの交流が始まりました。河川の清掃ボランティアと障害者への体験搭乗を行っているジェットスキーチームに所属するコベルコ建機九州の社員から「ぜひ子供たちをジェットスキーに体験搭乗させてあげたい」という提案がコベルコ建機CSR基金へ申請されました。コベルコ建機も、この思いに共感し支援を認定。体験搭乗の日、河川にはジェットスキーチームの方々の介添えを受けながら、水しぶきをあげ走るジェットスキーに乗った子供たちの歓声が響いていました。また、熊本教習センターに子供たちを招待しコベルコの体験搭乗を行っています。



5 フィリピン孤児院の運営・活動維持の寄付金

設備が老朽化しているフィリピンの孤児院に対し、飲料水の供給設備・子供用ベッド・楽器等の購入支援を行いました。



6 郷土芸能「石見神楽」の伝承、保存

島根県西部石見地方に古くから伝わる「石見神楽」。コベルコ建機西日本の社員がその神楽団体で活動しています。先人の伝えてきた舞形・所作の伝承、流行り廃りに流されずに伝統芸能の保存に取り組み姿勢に共感し、長く使える面やがっさりの購入費を支援しました。



7 障害者の社会参画を支援する事務所兼喫茶店の運営

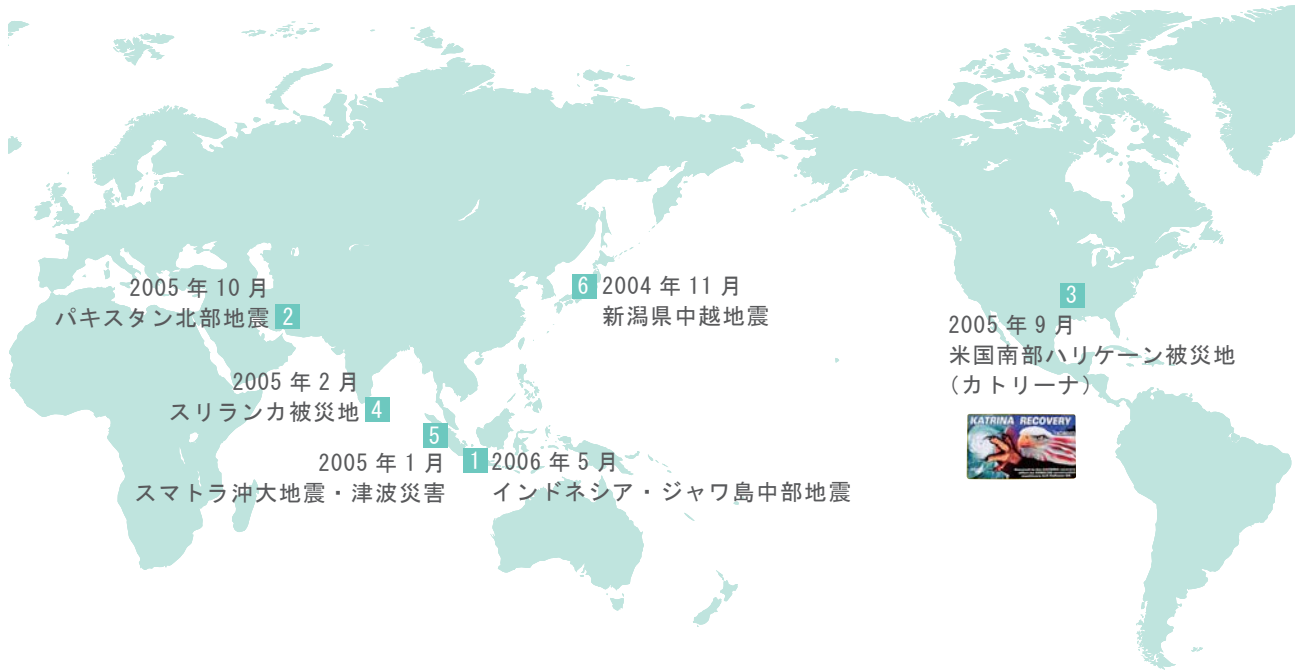
神戸のNPO法人「ひやしんす」は、誰もが生き生きと暮らせる地域社会づくりをめざしています。障害者が誇りを持ち、社会参画できる機会の拡大を願い、事務所兼喫茶店「Café ほてと」の運営を支援しました。お店には、コベルコシヨベルのミニチュアが飾られています。



人と社会と未来のために 今、私たちにできること

災害復興支援

CSR 活動発足以前から、建設機械の寄贈や寄付を通して災害復興支援を行ってきました。
※このページでは、2006 年度以前の活動についても報告しております。



近年の具体的な支援実績

- 1 2006年5月 インドネシア・ジャワ島中部地震
油圧ショベルの無償供与(20t級×1台)
燃料及びオペレーターなどの支給
- 2 2005年10月 パキスタン北部地震
日本赤十字社を通じ1百万円を寄付
- 3 2005年9月 米国南部ハリケーン被災地(カトリーナ)
油圧ショベル2台を寄贈
- 4 2005年2月 スリランカ被災地
コベルコ建機 & CNH で建設機械2台寄贈
地元の小学校に1千ドル十文房具を寄付
- 5 2005年1月 スマトラ沖大地震・津波災害
油圧ショベル2台を寄贈
CNH・ブルドーザー1台、ホイールローダー2台、バックホウローダー3台を寄贈
さらにオペレーター・補修部品などを無償供与
- 6 2004年11月 新潟県中越地震
油圧ショベル5台を寄贈
(重機ショベル1台、ミニショベル4台)

* CNH - 全世界包括提携のパートナーであるCNHグローバル社



■ その他の活動

コベルコ建機は人と人との温かい交流を図る、さまざまな CSR 活動を行っています。



3 **東京本社花摘**
コベルコ建機の東京本社では、2006年7月から会社前や近隣の花壇の手入れを行っています。枯れた花の摘み取りや道路の清掃、目黒川の雨水を利用した水まきも行っています。2007年4月には、ボランティアや近隣の子供たちと花植え作業を行い、黄色やオレンジ色のマリーゴールドが通り一面に咲きました。



4 **近隣小学校写生大会**
秋晴れの2006年10月、コベルコ教習所に、近隣の小学校1年生215人を招待し、社会勉強の一環として場内写生大会を開催しました。場内のシヨベルやホイールローダーなどの建設機械を囲み、笑顔いっぱい、夢中にお絵かきに取り組んでいました。



1 **義手対応シヨベル**
コベルコ建機九州では、現場復帰をめざすオペレーターのため、義手対応シヨベルの開発に挑戦しました。何度も試作を繰り返しながら使用者が操作しやすい理想の形を追求した結果、ついにシヨベルが完成。数カ月間で以前の操作技術を取り戻したオペレーターの自信と誇りに満ちた笑顔が印象的でした。



5 **交通安全教**
2006年11月、「交通事故バイバイスクール」をコベルコ教習所で開催しました。小学生や保護者、地域の高齢者の方約70人が参加し、安全で正しい自転車の乗り方を学びました。講習の最後には自転車交通安全確認テストを受け、参加者全員が合格し「自転車免許証」を取得しました。



2 **陽光新**
2006年3月、成都神鋼集団として行った成都市慈善会への寄付をもとに、経済的ハンディのある方向けの住居「陽光新居」全26戸が完成しました。収入を得る手段のない方が対象で、2006年7月の落成式には、現地のテレビ局数社が駆けつけ、ニュースで放送されるなど大きな反響がありました。

活動を通して、 私たちコベルコ建機の社員が感じたこと

コベルコ建機のCSR活動は、社員の提案からその活動がスタートします。CSR活動の中核を担うCSR推進委員会のメンバーも中堅、若手を中心とした社員で構成されるなど、いわば社員が主役のCSR活動です。さまざまな場面で、社員一人ひとりが地球環境の保全や地域社会への貢献活動に取り組む、そのなかで、地球に住む人間としての高い自覚と責任を養ってもらいたい。それがコベルコ建機の願いでもあります。CSR活動を担ってきた社員たちの、CSR活動に対する思い、コベルコ建機に対する思い、そしてCSR活動を通じて交流を図ってきたすべてのステークホルダーの皆様への思いをご紹介します。



日高 仁 (ひだか ひとし)

営業本部業務部業務グループ グループ長
1990年入社。2006年、コベルコ建機九州(株)でCSR推進担当として計画を取りまとめ、社内啓蒙に取り組む。翌2007年、広島事業所に移り、広島地区でCSR推進委員会メンバーとして社内啓蒙活動を行うなど、CSR活動には当初から一貫して参画。

「地域密着」をキーワードに、 ひとつずつ実績を積み上げていきたい

建設機械の販売の仕事は、地元での理解や信頼がないと展開できない地域密着型のビジネスではないかと思っています。そういう意味では、意識するしないに関わらず、以前から販売部門ではいろいろな地域活動に関わってきているように思います。当社の社会環境報告書の中で、コベルコグループのCSR活動の内容が紹介されています。世界のいろいろなところで、それぞれの地域に密着した社会活動が展開されていて、それがコベルコ建機のCSR活動につながっている、という印象を強く持ちました。「CSR活動」という言葉が世の中に出てくる前から、実質的にはそれに近い活動を続けてきたような気がします。地域社会から認知されるように社会貢献する、そういう活動を当たり前の活動として日常的にやっていく、そういう意識を基本にしながら、今後のコベルコ建機の企業活動が展開されていくことを望んでいます。私自身、地元の方々との調和や社会人として恥ずかしくない態度をとることを意識するようになりまして。たとえば、小さいことですが、いつも携帯灰皿を持つようにして、煙草の吸い殻のポイ捨てはしないようにしています。子供の事前、格好悪いです。身近なPTA活動から町内会の催し等、自分が住んでお世話になっている地域を良くしていく、それを自分から進んでやっていくこと、そこがCSR活動のスタートになるような気がします。あまり大上段に構えず、「地域密着」をキーワードに、ひとつずつ実績を積み上げていくことが大切だと考えています。

本業で社会に貢献する、 これがCSR活動の原点だと思います

建設機械は、私たちの生活を支えるインフラ整備にはなくてはならない存在です。しかしその一方、一般の方は造成などの場面で自然破壊につながるイメージを抱かれることもありま。私たちコベルコ建機がCSR活動を進めていく際にまず考えなければならないのは、低騒音、省エネなどの環境性能を満たした建設機械を世に送り出すこと、また金属/建設リサイクル機等を開発することによって、これらの分野でのリサイクル率向上を支援していくことだと考えています。本業で社会に貢献する、このことを忘れてはなりません。そのうえで、地元にも密着したさまざまな活動や世界各地での地域貢献や環境保護、またそれを担っていく人材の育成が大切だと考えます。私たちがこれまでCSR活動と意識せずに行ってきたことなかにも、地域の清掃活動などCSR活動につながるものが数多くあります。今後はその輪を広げ、日常化していくことが求められます。その際、気をつけなくてはならないのは、地道にそして継続的に、身の丈に合った活動を行っていくことです。無理に背伸びせず、自分たちができることは何か、それをよく考え、長く継続していくことだと思います。私はずっとエンジニアですので、建設機械の技術を駆使した、レスキューロボットや、介護ロボットの開発には興味があります。これらを開発し近い将来、社会に貢献することができれば良いと考えています。私たちコベルコ建機が行うCSR活動はこれからだと思います。



新子谷 映次 (あらしたに えいじ)

開発生産本部企画グループ マネージャー
1991年入社。ショベルのアタッチメントの設計からスタートし、3D/CAD導入プロジェクトに携わった後現職に。CSR活動には、2006年から広島地区の代表として、CSR推進委員会へ参画。



江島 譲 (えじま ゆずる)

営業本部直轄営業部 アシスタントマネージャー
1993年入社。CSR活動には、2005年、CSR活動の方針制定のためのワーキングチームから携わる。翌2006年には、総務部CSR推進グループとしてコベルコ建機CSR基金の運営や東京本社での花摘みボランティア活動、CSR活動の社内外向け広報などに注力。

すべてのCSR活動は、「人」との交流から始まります。

CSR活動は、ただ寄付して終わりという一方通行のものであったり、本業で利益が出ているからやる、利益が出ていないからやらないといった一過性のものであつてはいけません。その思いから、自分の眼で現地を視察し、現地の人々や地域ボランティアとも積極的に交流を深め、心の通った活動ができるように心掛けています。そうすることで、私自身も地域の住民の方々や子供たちをはじめ、地域ボランティア、NPOのリーダー、さらには国内外のグループ社員の皆さんともCSR活動を通じて幅広い交流を深めることができました。CSR活動は自分にとってより身近なものとなりましたし、自分の世界が大きく広がったように感じます。将来的にはこういった交

流がさらに深まり、他企業とのCSRを通じてのコラボレーションなどへ発展し、もっと大きなつながりが生まれるかもしれません。そのためにも、CSR活動がさらに社内でも普及し、皆さんが楽しく積極的に参加してもらえるよう、今後は各事業所、地域ごとに特色のあるCSR活動をグローバルに展開していきたいと思えます。また、建設機械メーカーならではの社会貢献につながるような製品・技術の開発にも取り組んでいけたら素晴らしいですね。今後は総務部CSR推進グループとして携わってきた経験を活かしつつ、これまでとは違う立場や視点から自分なりの有意義な提案をしていきたいと思えます。

社員による身の丈に応じた活動、それがCSRには不可欠です

コベルコ建機では、以前から災害地域への寄付や建設機械の寄贈などを通して、社会貢献を行ってきました。しかしCSR活動は、それらをさらに全社的に、社員全員で行っていくのがポイントです。社員一人ひとりがいろいろなアイデアを出し合い、議論し、具体的な活動へとつなげていく。地味なCSR活動ですが、実際に参加して感動する瞬間もあります。中国の西南交通大学神鋼奨学金授与式に参加した時のこと。式典後、島田社長へ現地テレビ局や大学生記者によるインタビューが行われ、「今回の奨学金の設立によるメリットは？」と学生記者から鋭い質問が出ました。「メリットなんか求めません。拠点進出以来、13年間、成都の皆さんに大変お世話になっていきます。企業が地域に利益を還元するの

は当然のことです」と島田社長が答えました。学生記者が大きくうなずき、私はほっとすると同時に嬉しくなりました。得てして、「偽善」や「目的論」と世間に見られがちなCSR活動の難しさも同時に実感しました。その意味でも、CSR活動は、何かすごいことをやろうとするのではなく、まず自分のできることを定めて活動していくことが大切だと感じました。それは個人でも同じで、私もゴミの細かい分別やエアコンの使用は極力控えるなど、できる範囲の地道な活動を続けています。CSR推進委員会のメンバーとして、これからも多くの社員が参加できるように、活動の「継続性」や「広がり」をキーワードに、身の丈に応じた活動を提案したいと思えます。



袁 晓今 (YUAN XIAO JIN)

中国事業本部 中国事業推進部 チーフ
2003年入社。以前から環境問題へ深い関心があり、CSR活動の開始を心待ちにしていた。CSR推進委員会メンバーとして具体的活動の提案や社内啓蒙活動を行う一方、中国拠点へのCSR活動の際には、通訳として現地訪問に同行するなど幅広く活躍。多方面からCSR活動の普及を支えている。



錦野 宰一 (にしきの ただかず)

IT・システム部 マネージャー
兼 総務部CSR推進グループ マネージャー
1991年入社。2005年、コベルコ建機のCSR活動方針を制定するワーキングチームのリーダーに任命される。翌2006年、2007年度のCSR推進委員会でも委員長として社内啓蒙活動を行うなど、コベルコ建機CSR活動の中心として日々奔走している。

CSR活動を通じ、コベルコ建機「らしさ」を若い社員へとつなげていきたい

私が、CSR活動を意識したのは、CSR活動方針を制定するためのワーキングチームへの参加がきっかけでした。当初は「CSR」と言われても、正直なところあまりイメージができませんでした。しかし、メンバー同士の議論や経営幹部へのヒアリングを通して、実はCSR的な考え方はコベルコ建機の風土に根付いていることを実感しました。たとえば、災害復興支援の一環として建設機械を寄贈するなど、自発的な社会貢献活動がCSRとして意識されなくても、それまでコベルコ建機では当たり前のようになされてきました。社会に対しての企業としての還元、つまり社会に何をしたいのか、何ができるのかを常に考えて行動すること、それがコベルコ建機「らしさ」です。ある意味、利益一辺倒に走るこ

となどできない不器用な会社かもしれませんが、私はそれの良いのかなと思っています。それでも、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様にも、ずっと付き合っていきたいと言われるような会社でありたいと思いますし、それがコベルコ建機「らしく」あり続けるために大切なことだと思っています。そして、CSR活動とは、コベルコ建機がよりコベルコ建機「らしさ」を洗練させ、よりヒューマンな会社となっていくための活動だと思っており組んでいます。まだまだ始まったばかりのCSR活動ですが、今後、社内でもっと広めるための具体的活動を通じて、若い社員へコベルコ建機「らしさ」というバトンをつなげていくことが、私に課せられた役割だと思っています。



代表取締役社長 島田博夫

地道な努力を重ね、
変化に強い事業体を構築し、
社会に役立てる
「KOBELCO」ブランドを
めざします



グローバルトップブランドへの道を歩む

私たちコベルコ建機は、1999年の神戸製鋼からの独立以来、事業環境の変化に迅速に対応しながら絶え間なく自らを変化させ続けてきました。代表的な施策としては、経営基盤の強化と商品力向上を目的とした戦略的な提携・協力関係の構築をはじめ、中国における生産・販売体制の強化、環境リサイクル分野のメニュー拡充、中古機販売ネットワークの構築などを行ってきました。さらに2004年4月には、油圧シヨベルと環境リサイクル機械に特化した新事業体制として独自のオペレーティングをスタートさせました。すべては常に自らが率先してより良い体制を、商品やサービスを、そしてシステムを創り出していくべきであると考えてきた結果です。そして現在では、コベルコ建機は、世界有数の建機・農機メーカーであるCNHグローバル社と世界的かつ包括的に提携を行い、世界第3位の建設機械グループとなりました。その結果、より高度な技術と品質に支えられた商品・サービスを、日本はもとより世界中の現場に提案できる体制を確立するに至りました。

社会との深い関わりを持つ CSR活動は、誇りと喜び を与えてくれる

グローバルトップブランドをめざすコベルコ建機には、以前からさまざまな社会貢献を果たしてきた歴史があります。一方、現在、企業に求められるCSR活動は、ガバナンスからコンプライアンス、社会貢献まで多岐に亘っています。そのなかで地域貢献は、企業の広告、宣伝、広報活動と

は明らかに一線を画すものです。たとえば広告は製品や企業活動を社会に訴えていくものですが、CSR活動は社会との関わりをもっと深いところで持ち、社員の意識を向上させ、誇りと喜びを感じていただけるような活動だと考えています。これを自分の趣味の範囲に留めることなく、会社のコストで、企業活動の一環として行っていくことです。地域や個人でやられていることをしっかりとサポートしていく。身の丈に合ったことをやる。会社の時間を社会のために使えるというのは素晴らしいことです。だから、社員一人ひとりの関わりを大切にしているのです。

人も地球も、 笑顔あふれる未来を 実現していきたい

私たちは、阪神淡路大震災に罹災した際にも証明されたように、極限状況になってもへこたれない、底力を発揮する企業だと自負しています。人も組織も、短所を矯正することは容易ではありません。それよりもその人や組織が持っている長所を伸ばしていくことのほうがよほど大切です。

コベルコ建機のCSR活動は、過酷な状況でもへこたれず、地道な努力によってある日局面を変えてしまう私たちの長所を活かした、そんな活動だと思っています。何よりCSR活動は継続することが重要です。しかし、受ける側にも期待があります。局面局面で状況も人の心も変わっていきます。その変化をしっかりと察知し、できることを伝える必要があります。笑顔あふれる未来を実現するため、コベルコ建機と社員が一丸となり、質の高い社会貢献活動を行う体制づくりを、これからも推進していきます。

意識改革宣言

さすがコベルコ!

選択される「商品」「社員」「会社」へ

私たちは、人と環境にやさしい循環型社会創出のため、世界中のお客様に対し、創造的な“知と技”により、革新的ソリューションを提供いたします。このお客様価値の最大化活動を通じて、私たちは持続的成長を実現し、グローバルトップブランドを目指します。

そのために、

私たちは『さすがコベルコ!』と評価される企業になります。

- * 常にユーザー現場主義を貫きます。
- * 企業市民としての社会的責任を全うします。
- * シンプル・スピード・オープンな風土を醸成し、一人一人がやりがいを感じる企業を目指します。



感じています新鮮!

小さな風。きっと最初はそこから始まる。
その風が共鳴しあい大きなニーズに成長する。
私たちは小さな風に耳を澄ます、感じとる。
人にもっと優しい技術の道を切り拓くために。
新しさと提案に満ちたマシンづくりを。
新風を感じ、帆いっぱい捉え、また新たな旋風を呼ぶ。
マシンと人間の新しい関係が生まれる。

“Feelin' Fresh!”は、何よりお客さまの現場を重視する
「ユーザー現場主義」の姿勢を貫くことを誓う
私たちのコーポレート・メッセージです。

コベルコ建機株式会社 KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

東京本社 〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2111
広島本社/広島事業所 〒731-0138 広島県広島市安佐南区祇園3丁目12番4号 ☎082-874-1111
大垣事業所 〒503-0932 岐阜県大垣市本今町1682番地の7 ☎0584-89-3104

<http://www.kobelco-kenki.co.jp>

コベルコ建機東日本株式会社

〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新田21番地(矢の目工業団地内) ☎0223-24-1141

コベルコ建機関東株式会社

〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-328-7111

コベルコ建機中部株式会社

〒476-0001 愛知県東海市南柴田町八の割138-18 ☎052-603-1201

コベルコ建機西日本株式会社

〒660-0086 兵庫県尼崎市丸島町46番地の1 ☎06-6414-2100

コベルコ建機九州株式会社

〒816-0912 福岡県大野城市御笠川3丁目1番8号 ☎092-503-4111

コベルコ建機教習所

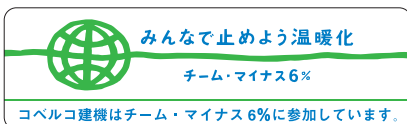
〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-327-2785

コベルコ建機インターナショナルトレーディング株式会社

〒141-8626 東京都品川区東五反田2丁目17番1号 ☎03-5789-2124

関東中古車センター/〒272-0002 千葉県市川市二俣新町17 ☎047-327-5505

神戸中古車センター/〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島7丁目15番地 ☎078-303-0900



本冊子は大豆油インク及び古紙100%の再生紙を使用しています